

産総研の第6期中長期目標について

資料 1

次期目標の変更ポイント

- 国内外の技術競争が激化する中、特定国研としてより中長期を見据えた研究開発に注力するため、目標期間を5年から7年に変更
- 世界最高水準の研究開発成果の創出、その着実な社会実装のため、領域・分野の枠を超えた融合研究の強化、AI、量子、半導体等の重点政策分野の研究開発の推進、AISolによる企業との連携の本格化、技術インテリジェンス機能の強化、研究・エンジニアリング人材の確保・育成
- 昨今の経済安全保障の重要性の高まりを踏まえ、研究セキュリティ・インテグリティを強化

現状・課題

- 第5期中には、組織横断的な連携・融合研究を部分的導入、成果活用等支援法人を設立
- これらの取組により、冠ラボのような企業との大型共同研究が以前より増加する等の動きが見られるものの、多様なイノベーションを連続的に創出し続け、我が国全体のイノベーション・エコシステムの中核的役割を果たすという、産総研が目指す姿には道半ば

第6期中長期目標の概要

- 第6期中長期目標期間は、「社会課題の解決と我が国の産業競争力強化に貢献するイノベーションの連続的創出」を法人のミッションとし、以下の取組により、産総研の総合力を生かして国や社会の要請に対応する世界最高水準の研究機関を目指す

1. 世界最高水準の研究成果の創出及びその成果の着実な社会実装

- 融合研究を行うセンターの創設等、産総研の幅広い研究分野の融合機能を強化
- AI、量子、半導体等の重点政策分野について、グローバル拠点の整備・強化等により研究開発を戦略的・集中的に実施
- 第5期に設立した成果活用等支援法人（株式会社AIST Solutions）との一層の連携による社会実装の加速
- BIL（ブリッジ・イノベーション・ラボラトリ）での地域企業・大学との共同研究の拡充等による地域イノベーションの推進

2. 企業、大学等の取組支援を通じたイノベーション基盤の強化への貢献

- 企業や大学とのコンソーシアム、公設試験研究機関等との連携の場である産業技術連携推進会議、海外との国際連携イニシアティブ等による、企業、大学、公的機関との連携強化等を通じたオープンイノベーションの活性化
- 技術インテリジェンス機能の強化、標準化活動の強化、知的基盤等の維持・整備・拡充

3. 我が国のイノベーション・エコシステムの中核となる競争力のある研究所の運営等

- 研究者やエンジニアリング人材等の高度な専門人材の確保育成、情報発信、DXの推進等、産総研の総合力を一層発揮する運営体制の構築
- 国際情勢の変化に伴う経済安全保障の重要性の高まり等を踏まえた研究セキュリティ・インテグリティの強化

(参考) 第5期中長期目標と第6期中長期目標の項目比較

第5期中長期目標

I. 「ミッション：世界に先駆けた 社会課題の解決 と 経済成長・産業競争力の強化 に貢献する イノベーションの創出 」
II. 中長期目標の期間（2020年度～2024年度 5年間 ）
III. 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項
1. 産総研の総合力を活かした社会課題の解決 (1) 社会課題の解決に貢献する戦略的研究開発の推進 (2) 戦略的研究マネジメントの推進 2. 経済成長・産業競争力の強化に向けた橋渡しの拡充 (1) 産業競争力の強化に向けた重点的研究開発の推進 (2) 冠ラボやOIL等をハブにした複数研究機関・企業の連携・融合 (3) 地域イノベーションの推進 (4) 産総研技術移転ベンチャーの創出・支援の強化 (5) マーケティング力の強化 (6) 戦略的な知財マネジメント (7) 広報活動の充実 3. イノベーション・エコシステムを支える基盤整備 (1) 長期的な視点も踏まえた技術シーズの更なる創出 (2) 標準化活動の一層の強化 (3) 知的基盤の整備と一層の活用促進に向けた 取組等 4. 研究開発成果を最大化する中核的・先駆的な研究所運営 (1) 特定法人としての役割 (2) 産総研からの出資による外部法人を活用した外部連携機能の強化と民間資金獲得の推進 (3) 外部との研究活動に従事する研究者グループ及び個々に対するインセンティブの付与 (4) オープンイノベーションのプラットフォームとしての機能強化 (5) 技術経営力の強化に資する人材の養成 (6) イノベーションの創出に必要な研究力の強化 (7) 技術インテリジェンスの強化・蓄積及び国家戦略等への貢献 (8) 国の研究開発プロジェクトの推進 (9) 国際的な共同研究開発の推進
IV. 業務運営の効率化に関する事項
V. 財務内容の改善に関する事項
VI. その他業務運営に関する重要事項

第6期中長期目標

I. ミッション：「 社会課題の解決 と 我が国の産業競争力強化 に貢献する イノベーションの連続的創出 」（※第5期を継承、深化）
II. 中長期目標の期間（2025年度～2031年度 7年間 ）
III. 研究開発の成果の最大化その他の業務の質の向上に関する事項
1. 世界最高水準の研究成果の創出及びその成果の着実な社会実装 【1. 1 世界最高水準の研究開発成果の創出】 (1) 産総研の総合力を活かした融合研究の強化 (2) 重点政策に対応した戦略的研究開発と世界的な拠点の強化 (3) 将来の社会実装につながる先端的技術シーズの創出 【1. 2 社会実装の加速】 (4) 共同研究強化とスタートアップ創出を通じた社会実装の加速 【1. 3 地域連携】 (5) 産総研がけん引する地域イノベーションの推進 2. 企業、大学等の取組支援を通じたイノベーション基盤の強化への貢献 【2. 1 産総研の知見の活用】 (1) オープンイノベーションの活性化と地域企業の技術力向上への貢献 (2) 標準化活動の一層の強化 (3) 国内外の技術インテリジェンス機能の強化と政府の政策立案への協力 【2. 2 産業基盤の整備】 (4) 知的基盤等の維持・整備・拡充の継続 (5) ものづくり基盤加工技術の革新と普及 【2. 3 産総研の設備、機能の提供】 (6) 企業の研究開発活動に貢献する研究設備の整備・提供 3. 我が国のイノベーション・エコシステムの中核となる競争力のある研究所の運営 (1) 産総研の研究開発力をより一層向上させる運営体制の構築 (2) 有為な専門人材の確保 (3) 研究開発成果等の的確な対外発信によるブランディングの強化 (4) 研究DXの推進